

<事業名> 「清滝の桜」フォトコンテスト

団体名	清滝・桜の会
所在地	豊岡市日高町
代表者名	北村哲三

事業内容	<p>「フォトコンテスト」応募用紙を校区（清滝・西気地区）に全戸、市内各地区コミュニティ、道の駅、写真店等に配布して募集。写真愛好家、写真サークルにも依頼。4月に入賞作品を使って写真展を但馬巨木保存会の写真展と同時開催。新型コロナウイルス感染拡大防止のため桜まつりは中止であったが写真展は消毒用アルコールを置き換気をして密にならないようお願いしながら行った。読売TVで夜桜中継が予定されていたが当日コロナ緊急事態宣言が出たため中止になったのは残念でした。</p> <p>小学校の桜がソメイヨシノとして県下最大である事が確認出来たので折々にアピールし、認知度の向上に努めています。</p> <p>「フォトコンテスト」は地区コミュニティセンターで常時受付して2月14日に締め切り後、桜の会、「桜・清流の郷きよたき」、清滝小学校、外部審査員の4者で審査を行い、推選1点、特選2点、入賞20点を選出した。市外の方の応募が多く点数も100を超えた。推選の作品を使いカレンダーを製作、校区内を中心に配布。</p>	
地域	<p>応募者は日高町12名、旧豊岡市4名、竹野町2名、養父市2名、神崎郡2名、姫路市3名、加古川市1名、出石町1名 計27名 応募点数104点</p>	
事業の効果	<p>① 団体（組織）内の効果</p> <p>写真をカレンダーにする事により年間を通じて桜への関心が高まり、桜の管理活動への理解が深まり、地区民の協力が得られやすくなった。撮影するという視点が加わり、桜の素晴らしさが再発見された。また地域内外の人に撮影を依頼する事で愛着がより強くなり、守り育てる活動が強化されている。</p> <p>会員が自分の手で植樹した桜を管理する事で技術を取得しながら成長を見守り愛着が増し、地区の桜の管理作業に熱が入ってきている。</p> <p>② 地域への効果</p> <p>写真をカレンダーにする事により年間を通じて桜への関心が高まり、桜の管理活動が広がった。カレンダー配布も定着し楽しみに待たれるようになっている。撮影対象範囲を広げたために各区桜への関心が高まり、放置していた桜の保安全管理が始まった。清流・溶岩流と桜の組み合わせという視点が生まれ、両者併せての地域活性化活動が検討された。県下最大である事が地区民の誇りを高め、知人・同窓生等を通じ地区への関心が広がっている。桜見物の来訪者が年々増え、写真愛好家の来訪も増えている。</p>	
事業経過	<p>2年4月</p> <p>4月 随時</p> <p>2月14日</p> <p>2月19日</p>	<p>第7回フォトコンテストによるカレンダー配布</p> <p>フォトコンテスト応募用紙配布 以後随時</p> <p>入賞作品写真展開催。但馬巨木保存会による「巨木写真展」も同時開催。</p> <p>フォトコンテスト応募 清滝地区コミュニティにて受付、整理。</p> <p>フォトコンテスト応募締め切り</p> <p>フォトコンテスト審査会</p> <p>カレンダー製作・配布</p>

協働の相手方	清滝地区コミュニティ「桜・清流の郷きよたき」 清滝小学校、緑の少年団 清滝地区区長会
今後の課題等	<p>〈事業を実施する上での課題〉</p> <p>①団体(組織)の課題 会員が各区の桜の保全管理活動を行うこと。 会としては各区の桜の状態・本数を把握すること。 フォトコンテストへの応募増をはかること。 桜の保全管理への人と経費の基礎基盤の強化</p> <p>②地域の課題 桜の管理作業を介して異世代交流をはかる。 溶岩流と桜を併せた活動、特に地区コミュニティと協力して地区全体を包む活動として地域の宝である桜を役立てたい。</p> <p>〈2021年度以降の事業計画〉 フォトコンテストは可能な限り続けたい。カレンダー製作・配布。 「清滝さくらの歌」DVDの有効活用。 地区内の桜の名所の拡充あるいは新設。 新植した桜の管理、</p>



2年10月18日 緑の少年団による計測



3年2月19日 審査結果 推薦作品